



日口交流

発行: 特定非営利活動法人日口交流協会

E-mail:nichiro@nichiro.org

Home Page: http://www.nichiro.org

〒106-0041東京都港区麻布台3-4-14

麻布台マンション401号

Tel : 03 (5563) 0626 Fax: 03 (5563) 0752



島山堅蔵事務局長講演会

岡崎 好典

2023年3月25日土曜日、当協会第23回 (通算第59回) 通常総会の閉会后、引き続き島山堅蔵事務局長兼常任理事による講演会がありましたので、主な内容をご報告いたします。テーマは「ロシアと私 50年」でした。まず、ご自身の自己紹介があり、ロシア語の勉強を始められた契機についてお話がありました。島山さんがロシア語を始められたのは、お父様がソ連の抑留者で、小さい頃からお父様が話された体験談からロシア語に触れる機会があったからで、高校1年生からNHKのラジオ放送を聞くなどしてロシア語の勉強をしてきたそうです。大学はロシア語学科に進まれ、卒業後は得意のロシア語を活かして商社に就職され22年間勤務したのち、日立グループで約20年間勤務されました。その間、3回計16年間モスクワ市とトベリ市に駐在されたそうです。また、日本のピストンリングの工場で1年半くらい準備に苦労しながら通訳をしているうちに、沸々とロシア語が湧いて出てくるような経験をされたそうです。

次に、ソ連邦時代の体験談のお話がありました。ソ連時代は、契約の相手がエンドユーザーではなく、国家機関である貿易公団が窓口になっていて、支払いリスクはなかったものの、実際に作業を行うエンドユーザーと打ち合わせをすることができず、非常にやりにくかった。現在のロシアでは、エンドユーザーと直接契約ができるようになった一方で、与信を取ることが難しくなった。それは、一人のオーナーがいくつもの似たような会社を持っていて、ある会社の業績が芳しくなくなったときは、その資産を他の会社に移して意図的にその会社を潰すことがあるため、そのような会社に出資や取引があったら、非常に大きな損害を被ってしまうからだそうです。

次にロシア人と長い間一緒に仕事をしてきた経験から、ロシア

人との仕事の仕方についてのお話がありました。まず、ロシア人の部下には、「良い情報」よりも「悪い情報」を先に報告させるように指示してきたそうです。「悪い情報」を聞けば、その時のすべての状況がわかるからです。また、ロシア人の部下に事柄の進捗を確認するよう依頼した場合、ロシア人は確認して状況に変わりがなかったときは、新しい情報がないとして、報告する必要がないと考えるのだそうです。これに対し「状況に変わりがなかった」ということも新しい情報なのだから、報告するように指示してきたそうです。さらに、ロシア人に状況の説明を求めると、彼らの期待や希望をあたかも実際の状況のように話してくることから、ありのままの実態を説明するよう指示してきたそうです。なお、島山さんは、先輩から「ロシアビジネス3つ“あ”の法則」を教わったそうです。「ロシアンタイム」というゆったりした時間の流れがあるので、「あせってはならない」、ロシアビジネスは、不確定要素が多いので、事を進めるうえで100%「あてにしている」、ロシアビジネスは、このように難しい市場であるが、希望を持ち続ければ、最後に女神が微笑んでくれることもあるので、「あきらめてはならない」の3つの“あ”が大事だそうで、島山さんはこれを教訓としたおかげで、185億円の契約を成立させたことがあるそうです。

島山さんからは、このほかにも、ロシアの水素エネルギー政策、鉄道、プーチン大統領の軌跡と側近、米国や中国との関係、ロシア語の特徴、ロシア経済、軍事費等についてのお話もありましたが、誌面の都合により省略させていただきます。

最後に、島山さんがロシアに駐在していた時の思い出の写真を4枚紹介していただきました。どの写真も島山さんがロシア人のスタッフから信頼され、とても仲の良い職場であることをうかがわせるもので、島山さんのお人柄の良さが感じられました。

以上、島山さんにロシア語の勉強をはじめから50年、ロシア人とともに過ごしてきた42年を振り返っていただきました。お父様の抑留体験から始められたロシア語の勉強をマスターされ、仕事に活かして、42年もロシアで、または、ロシア人とビジネスを展開してきた島山さんは、まさにロシアビジネスに精通された方だと思いました。また、島山さんのロシアに対する思いや、ロシア人を愛する気持ちが伝わってくる、心温まる貴重な講演会でした。
(常任理事)

お知らせ

●ロシア語の泉 (6)

日時: 2023年4月30日, 5月14日, 5月28日 (日) 13:30~16:00

講師: スニトコ・タチヤナ

会費: 会員7,000円、一般8,000円

会場: 田町「リーブラ」又は新橋「ばるーん」

●マトリョーシカ絵付け教室

日時: 2023年6月3日 (土) 13:30~15:30

場所: 田町「リーブラ」造形表現室

費用: 3,000円 (1セット教材費込み)

講師: 菅野エレナ

●ロシア語教室生徒募集中!

水曜初級1A-1 (19:00~20:00) 1A-2 (20:05~21:05)

土曜上級 (10:00~11:30) 月曜準中級 (18:00~19:00)

*見学もできますが変更の場合もありますので前もって事務局までご連絡ください。プライベートレッスンもあります。

お申込み、問合せ先: NPO日口交流協会事務所

Tel:03-5563-0626 E-Mail:nichiro@nichiro.org

お願い

NPO日口交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシア関連の学習会、ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けています。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をお願い申し上げます。一口千円からいくらでも結構です。

振込先: 郵便口座00160-9-66486、加入者名: 日口交流協会

連絡先: 日口交流協会事務局 E-Mail:nichiro@nichiro.org

Tel:03-5563-0626 Fax:03-5563-0752

☆留学生便り(53)☆

エストニアに留学するまで

立岩 優里

4月に入りましたが、エストニアではいよいよ雪解けとともに花が咲き始めたようです。中でも、白い小さな花を咲かせるスノーフレックは美しく、新たな土から顔を出しエストニアに春の訪れを告げているようです。私は留学を終え大学を卒業し、現在は会社生活で手一杯なのですが、そんな中で友人からこういった話を聞くと、黄金の季節が再び始まるのかと、遠く離れた地に思いを馳せずにはられません。

そんな美しい国エストニアへ留学したのが良い選択だったというのは、現在はわかっていますが、留学する前は知る由もなかったです。私の所属していた大学では、エストニアとの交換留学を提携しておらず、実際、周りでもエストニアへの留学経験者は皆無でした。それ以前に、エストニアへ行ったことがある人も中々いませんでした。

私の場合、最初からエストニアに行きたいという明確な動機があったわけではありません。留学の目的としては、大学でロシア語コースを受講することでした。よって、希望に沿ったコースを提供できないか、様々な国の大学関係者や大使館の方々、一般の方々へまずは手当たり次第に問い合わせました。ですが、白紙の状態から、どこの国、どこの大学、どんなコースと費用、自身の希望にぴったり合った留学先を自分で見つけることは中々難しかったです。

その中で、2つの軸は一貫していました。それは、ロシア語

の上達可能性と安全性です。やはりロシア語が頻繁に話されている旧ソ連地域へ行きたいと思ったこと、また、治安や情勢が比較的安定している地域へ行きたいと考えていました。

そんな中、エストニアへの留学具体案が出てきたのは、ひよんなことから、ロシア・ユーラシア地域の旅行代理店で勤務する大学の先輩に紹介頂いたからです。ちょうどコースが開設された直後で、私は後にその第一期生となりました。

ですが、私はエストニアについては専ら浅学でしたので、その安全性が不安でした。ですが、一つ確かなことは、相対的にみると安全、とは言えても、絶対安全といえる国はどこにもありません。決心を固めることは時に難しいですが、事前の準備やたくさんの人と繋がっておくことは重要でした。結果的に、首都タリンの治安は大変良く（夜間に一人で歩いても大丈夫と言われるくらいです）、留学コースを完了し無事に帰国できました。学生の頃にこのように思い立って行ったことは、後々何か必ずプラスになると信じています。

私は、この留学までに、非常に多くの方からの助言やご協力を頂き、最終的にエストニアへ行くことができました。一人一人の方々へ、対応し応援して頂いたことに対して感謝の気持ちで一杯です。ロシア語就学者で留学を考えている方は、是非エストニアも一つご検討頂けるとこの上ないことです。それでは。

モスクワから帰ってきた女性画家(2)

畔上 明

モスクワ・オリンピック日本不参加による衝撃から、勤め先の旅行会社の財政状況が悪化の一途をたどり社員の大半が身を引く悲運、私も生活の為1982年臍を嘔む思いでソ連ともして旅行とも関係のない仕事へと転職することとなりました。

そのような折、佐藤瑞江子さんより連絡を頂き、先生仲間を連れてシベリア鉄道を皮切りに、中央アジア、キエフ、レニングラード、モスクワを再訪したいとの計画を語られたのです。

旅行業から離れてしまったこともあり、新たに紹介したソ連専門旅行社でツアープラン作成をしてもらったところ、それまでの旅行商品は長くても二週間がせいぜいであったものがより長くより訪問都市の多いツアー企画も面白い、1984年夏の三週間ソ連周遊ツアーとして佐藤先生ご一行以外にも一般募集を試みたならば反響を呼ぶのではないかと。そうなら私にアテンドしてほしいとの話に発展、勤め先にお盆休み延長の了解も得ました。新規企画として宣伝したところ佐藤さんと出会った時のツアー参加者も申込まれ、さらに私の母もその頃義理の母親の世話をした未見送ることとなった疲れからの解放ということで旅行参加を決意、総勢38名、優秀な通訳者もサブ添乗員として付けて頂き、楽しい大旅行になったのです。青春時代を満洲で過ごした母にとってはソ連というのは恐ろしい国というイメージが強かっただけに、旅をするうちにその魅力が過去の忌まわしい記憶を覆してくれたのでした。私にとってこのツアー添乗を契機として、ロシア語の勉強に再度取り組み直し人生の後半生をロシアとの関わりのあ



2017年9月「月光荘」での個展

る仕事に再挑戦していくことにもなりました。

旅を終えて、佐藤瑞江子さんからは銀座タカゲン画廊で個展を開く通知を頂き、花や人物画、風景画を我が母と一緒に堪能、その後も個展が開かれる毎に母共々佐藤さんとの再会を喜び合ったのでした。

ソ連が崩壊したのち変わりゆくロシアが気懸かりな思いでいた佐藤さんは2015年10月私の添乗する「日露歴史探訪ツアー」に参加、31年振りのモスクワ再訪を果たしました。しかし、その翌年脳溢血で倒れてしまうという災難に見舞われたのです。とはいえ絵を描く執念は衰えずリハビリ中も絵筆を休めることなく2017年9月には銀座「月光荘」での個展開催に漕ぎ着け下栗の里などの景色を力強く描いた作品を拝見することが出来ました。

「月光荘」と言えば中村曜子(1926-92)が政財界の人的交流を得ての活動が話題を呼び、1970年の大阪万博をきっかけとしてレービンやアイヴァゾフスキーといったロシアの名画を紹介してこられたこと、残念ながら財政問題からスキャンダラスな最期を迎えてしまったことを知る方もいることと思いますが、元々は文化人との幅広い交流を持った橋本兵蔵(1894-1990)が1917年に開業した画材店として存続、店名はヴェルレーヌの詩に由来し与謝野晶子が名付け親でもあります。

月光荘でお会いして以降佐藤さんとはご無沙汰続きとなってしまいましたが、98歳を迎えた我が母としても大切な思い出を作ってくれた方であり、現在も絵心は持ち続けておられることが伝えられ、また新たな作品をと願う昨今です。

《モスクワ・アラカルト75》

ラフマニノフ生誕150周年

日向寺 康雄

4月1日はロシアの作曲家で天才的なピアニストでもあったセルゲイ・V・ラフマニノフの生誕150周年にあっていた。私は14日、協会仲間でロシア文化・芸術の紹介活動を積極的に展開しているグループ「白夜」の大島昇代表が、めぐろパーシモン小ホールで催した記念コンサート（「ラフマニノフ・ストーリーズ2023」Vol.1ピアノの名曲を弾く）に行く機会を得た。

氏が私の教え子達に破格でチケットを分けて下さったことには、感謝の言葉もない。演奏された日高志野さんは、東京藝大、モスクワ音楽院で研鑽を積み、2012年日本人として初めてギレリス記念国際ピアノコンクール(ウクライナ)で優勝したほどの、卓越した技量を持つピアニストだ。彼女はラフマニノフ独特の美しいメロディーをただそのまま技巧的に上手く弾きこなすだけではなく、音にととてもたくましく骨太な力を持っている。作曲者が、ロシアの豊かな自然や広大な大地から湧き上がる不思議な声を聴き、そこからインスピレーションを得たものを深い所で見つかりつかみ、表現していたように感じた。演奏後3度も舞台に呼び戻されながら、それでも最後まで拍手が鳴りやまなかったのも頷ける。機会があれば、オーケストラとの共演で彼女のラフマニノフを大ホールで是非聴いてみたい。

コンサートの翌日、学生から早速メールで感想が届いた。中大法学部3年0さんは次のように書いている。「素晴らしい演奏を生で聴くことができ、演奏後も余韻が残っています。演奏を聴き、先生が授業で仰っていた、人間は波動であると



セルゲイ・ラフマニノフ

という言葉思い出しました。言葉では表さなくても分かり合えることが演奏から実感できました。また、その場で聴く演奏は、CDで聴くよりもさらに、作曲家の想いが伝わってきました。ラフマニノフの曲はロシアの風景や鐘の音が連想されると仰っていましたが、その通りでした。演奏する方によって表現の仕方が異なり、同じ方でも全く同じ演奏は一回もありません。数ある公演の中、日高さんが演奏する、ある一日に参加することができ嬉しいです。このような貴重な機会を頂けたことに感謝しております。これまで以上にロシアの

文化を知りたいと思いました。」日高さん、そして大島さん、おかげで教師冥利に尽きる経験をさせて頂きました！！

私がラフマニノフを知ったのは、中学の時だった。母の誕生日プレゼントに買ったグリーグのピアノ協奏曲のレコードのB面が、偶然彼のピアノ協奏曲2番だったのだ。

明るく楽しくシンプルだった少年時代から、周囲の世界や自分自身、そして未来への漠とした不信や不安が芽生え始めていた私にとって、彼の作品の何だか暗くて重いが独特の赤黒い情念のエネルギーに満ちた雰囲気、何故か私は強く惹かれ、母からレコードを取り上げて一人何度も繰り返し聴いたのを覚えている。あれこそが私の魂が「ロシア的なもの」に共振し、その魅力に目覚めたきっかけだったのかもしれない。

(元モスクワ放送チーフアナ、現中大&早大非常勤講師)

ペルメニのアイデンティティ

キタヤマ 忍

読者の皆さんはじめまして！この春から時々登場させていただく北国暮らしのスラブファンです。最近ではインターネットという「どこでもドア」で広く浅く、でも深く旅していますので、そこで起きた出来事とロシアでの思い出などを織り交ぜながらご紹介したいと思っています。

さて、異文化を学ぶ時には味や匂いといった五感の経験が大切な鍵となります。ルーツを学び受け継ごうとする人たちにとっても同じです。ソ連崩壊後、世界中に移り住んだロシア人家族ももう3代目、早ければ4代目でしょうか。自らのルーツに親しむ料理コミュニティでは、各家庭に代々伝わるっておきの一皿に出会えます。私が参加するネット上の料理コミュニティの参加者はロシアに行ったことも住んだこともない人がほとんどです。そのため、材料を今住んでいる地域のものに置き換える際に奇跡が起きることもしばしば。緑がかったボルシチが登場するのも醍醐味です。

そのコミュニティである発見がありました。あの名物を簡単に作れる調理器具があったのです。ステンレス製で銀色に輝き、ホットサンドメーカーのようにボタンと挟むだけで、フリルのついた半円のソレができる優れもの。しかも可愛らしい手のひらサイズ。そう、それは、まごうことなき「餃子包み器」！日本円で1200円程とちょっとお高く、「一つしか

買えなかったけれど、包むの楽し早い。オススメ」小さいけれどチェリーのヴァレーニキもいいね。もっと安かったら欲しい。あら、ダイソーの通販で買えるよ、と伝えたものの、大事なことを忘れてないか？市販の餃子の皮用だから手練りのペルメニの皮だとあふれない？

「日本じゃペルメニの皮もスーパーで買えるの!？」「便利!」いや、違う、これは餃子。でもモチモチ水餃子はペルメニ寄りだな。ペルメニの一線を探して会話は続く。モンゴル寄りの家もあれば中東あたりでは少しフルーティーな家も。同じ地域に住んでいても、先人の生き様がペルメニに個性を与え、同じようできて同じではなく。試してみたいアレンジがたくさんで、一線などどうでも良くなります。

「『うちのペルメニ』でいいんじゃない？」納得の一言で無事解決。

最近では小籠包にみられる中国の妙技を取り入れて、花形に包まれたハレの日のペルメニも披露されました。作って食べて、家族や友人を思い、いつかの「家族」を思い。ペルメニ的なものが誕生した日から、きっとこの光景は続いてきたに違いありません。

「うちのペルメニ」。ああ、なんて素敵言葉。

(ビデオグラファー)

変わりゆくウズベキスタン

川端 良子

ウズベキスタンは、旧ソ連時代に中央アジアの中心として発展しました。1966年の大地震でタシケントの街の多くが崩壊したことで、計画的な街づくりが進み、1977年に中央アジア唯一の地下鉄



もひかれました。ソ連崩壊後も発展を続けていましたが、2016年、ミルジョエフ大統領に代わってからその発展に加速がかかりました。このコロナ禍でもウズベキスタンの発展は止まることなく続いています。昨年、2年半ぶりにウズベキスタンを訪問し、訪れた街々で変化を強く感じました。

首都タシケントは、民間資本での発展が目覚しく、世界の名だたるホテルが開業しています。また、オフィスビルも高層化し、住居もディズニーランドのホテルかと思うようなきらびやかなものが建っています。もともと、ソ連だったので、街中に大きく重厚な建物が多く、隣との距離もたつぷりとられ、緑も多く植えられていました。今回さらに再開発が進み、多くの建物が高層化しています。一方、再開発に伴い立ち退いた人たちの住宅のために郊外にベッタウンが建設され、地下鉄が延長されています。特に車社会の発展は目覚しく、片側5車線の道路が街中を縦横に張り巡り、多くの国産車が走っています。現地の友人に行きたいところを告げ車で送ってもらっても、これまで覚えていた道とは全く違う景色が続き、突然目的地に着くということは何度も経験しました。現地の人たちはこの発展に誇りを持っており、東京のよ

うになるのだと言ってくれましたが、東京はこんなに急速に変化できるのか?と思うほどでした。2年後までに、中央政府の建物は現在建設中のタシケントの新空港(写真)の近くに移転するとのことで、さらなる発展が続くものと思います。

一方、新しい公園の建設などで、ウズベキスタンの歴史を展示し、ウズベキスタン人としてのアイデンティティのさらなる確立を目指しているように思います。旧ソ連ができるまでは、ウズベキスタン共和国は、いくつかの藩国に分かれていて、それぞれの文化を持っていました。ソビエト連邦崩壊後のウズベキスタン政府は、旧ソ連に禁止されていた伝統文化を復活させ継承するために、多くの文化の担い手を保護し、展示する場を提供してきました。長年の成果は、観光資源として提供され、多くの外国人がウズベキスタンを訪問しています。特に、旧ソ連諸国の人たちだけでなく、西ヨーロッパの人たちが増えています。コロナ禍前は日本旅行者も多かったのですが、まだツアーが再開されていないので少なく、今後の増加を期待しています。

地方は、政府主導の開発が中心ですが、サマルカンドには、新しい国際空港ができ、郊外に「サマルカンドシティ」という、ホテルとウズベキスタン国内の伝統文化の展示即売をする街が建設されました。変わりゆくウズベキスタンをぜひご自身で体験してください。

(NPO法人日本ウズベキスタン協会理事長)

国際放送史研究の戯言No022

母校の授業を担当する

島田 顕

新年度になり、授業がはじまった。春学期に私が担当するのは、関東学院大学の政治学講義、跡見学園女子大学の国際社会論講義、総合科目(国際政治)講義、法政大学小金井キャンパスの英語三つの授業である。そして今年度春学期に新たに担当することになったのが、法政大学市ヶ谷キャンパスの西洋近代史講義だ。以前より法政大学小金井キャンパスで授業を担当させていただいていたのだが、市ヶ谷となると話は別だ。なぜなら、法政大学文学部史学科は私の母校だからだ。

この話はひょんなことから舞い込んできた。学部学生だったときからの恩師(ローマ史)が退官することになり、その際史学科の学会である、法政史学会の評議委員になることを私に依頼してきたのだ。もちろん断る理由もなく、二つ返事で承諾し、6月の会合にも参加した。実はこの時密かに考えていた。どうせなら史学科の授業を担当できないかなあ、と。願いはかなうものだ。数ヶ月後、授業担当依頼の連絡があった。まさに渡りに船。即答で承諾した。やりがいがあるかどうかはわからないが、母校で講義を担当できるのは、非常に名誉なことだと感じている。

ところで前任者がやっていたのは、近代史の中でもロシア近代史だった。私はロシア史自体を教えることは今回が初めてではないが、近代史ということで、より専門分野に近いところを教えることができる。だがロシアの近代史を忠実にやっていくべきなのかという問題もあった。前任者のシラバ

スを見ると、ピョートル大帝からロシア革命までの歴史をやっていたようで、前任者の内容を踏襲すべきかどうか、迷いに迷った。自分の専門の問題もある。結局、近現代史ということで、自分のできることを最優先させることにした。つまりピョートル大帝からの歴史はコラム程度にとどめ、19世紀後半から第二次世界大戦までの近現代史を中心にやる。そして、近現代史に絞ってやることを自己矛盾しないよう思案し、内容も決まった。私がやる西洋近代史、つまりはロシア近代史の授業内容は、ロシアの非西欧的性格、共同体・農奴制と農奴解放、社会主義・共産主義とは何か、ロシアの革命思想とロシアの社会主義運動、帝国主義と第一次世界大戦、レーニンとロシア革命、革命後のロシアと世界、ロシア革命以降のソ連外交、コミンテルン、スターリン主義と大粛清、リトヴィノフと集団安全保障外交、第二次世界大戦とソ連・ロシア、冷戦と社会主義体制の強化、である。かくしてシラバチェックもパスし、今、晴れて教壇に立っている。

久しぶりの母校は何もかも変わっていた。薄汚い校舎群は姿を消し、高層ビルのボアソナードタワーをはじめとする最新の設備を備えた綺麗な校舎たちに生まれ変わっていた。校舎内にエスカレーターがあるのはちょっと滑稽である。一回目の受講者は70名ほど。レスポンスシートを読むのも一苦労だ。だがこれも嬉しい悲鳴である。